

# 牛久：学校周辺に見る自然

第62号 ひたち野西近隣公園

2012年1月22日発行

## ＜ 冬の野鳥観察 ～ 1. 冬鳥 ＞

冬休みも終わり、私の理科支援活動も再開しました。この時期、なかなか野外観察をしようという気にはなれないかもしれませんが、実は、星や鳥を観察するのに、適した季節でもあります。そこで今回は、冬休み前後にひたち野水辺公園で観察した鳥たちを紹介しようと思います。まずは冬鳥から。



草の葉や種子など、植物質をくちばしでこしとって食べるコガモ。その名の通り、日本産では最小のカモ。



冬鳥で、水辺公園では一番よく目にするコガモ。淡水ガモ（淡水に多く、あまりもぐらないカモ）で、栗色の頭に目から後の緑のもようが目立つのがオスで、全身褐色で目だたないのがメスです。右の写真のようにして、草の葉や種子、石につく藻などを、くちばしでこしとって食べます。左の写真は、かくれていた茂みから出てきたところを撮りました。

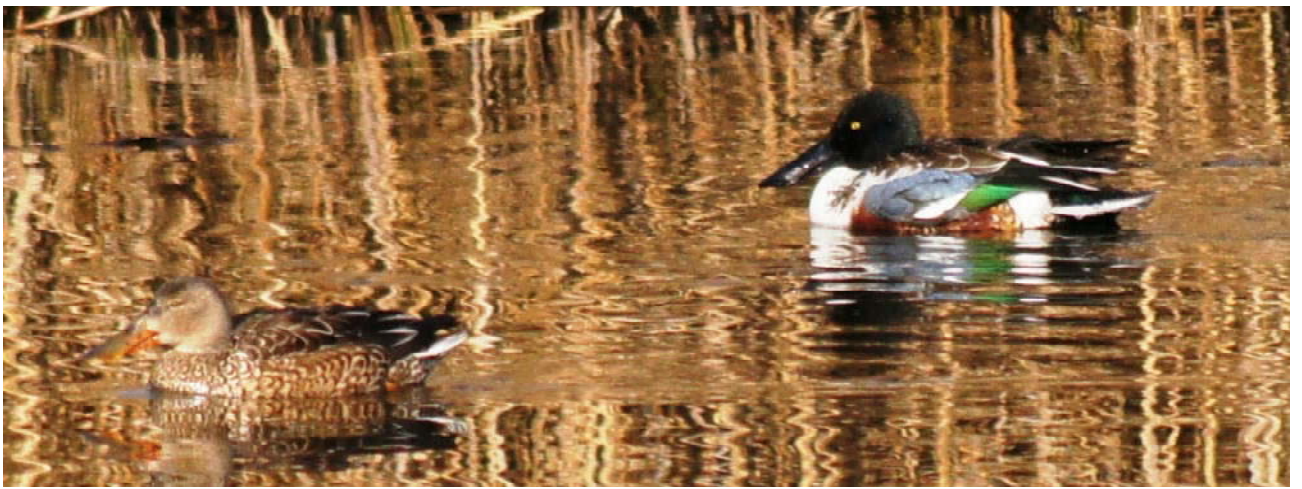
← 茂みから出てきたコガモのオス。



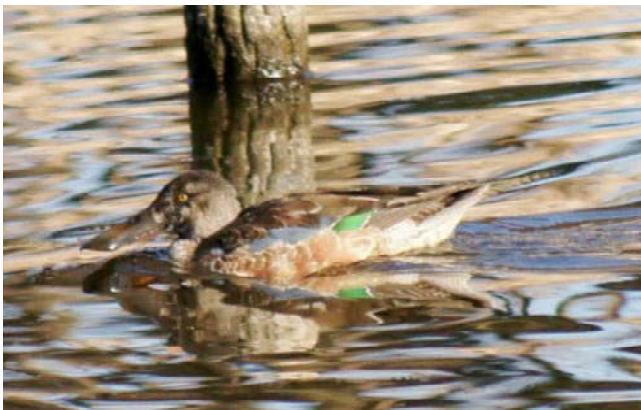
続いて、オカヨシガモ。12月に入って、増えてきたように思います。オスは灰色の体に黒いおしりが目立ち、くちばしは黒ですが、メスは褐色の体に黄色のくちばしです。コガモやハシビロガモに混じって、えさを食べたり、休憩したりをくり返すようすが観察されました。移動のときは、オス、メス一緒のことが多いようでした。これも淡水ガモの仲間で、夜の方が、活発に活動するらしいです。

← くちばしで草の種子などをこしとって食べるオカヨシガモ。灰色の体に黒いおしり、黒いくちばしがオス。褐色の体に黄色いくちばしがメス。 ↓





幅広いくちばしでプランクトンをこしとり食べるハシビロガモ。左がメス。目立つ右がオス。下はエクリップス。



こちらは 59 号でも紹介しましたが、くちばしの広いハシビロガモです。オスは白い胸、赤茶色の腹、水色の雨おい羽、光沢のある緑色の頭がとても美しく目立ちます。くちばしにある歯ブラシ状のもので水をろ過し、プランクトンを食べるそうです。左は「エクリップス」といって、オスが繁殖期のあと一時的にメスのような地味な羽色になった状態です。目の色など、よく見るとオスだと分かります。



こちらを警戒しながら泳ぎ、えさを食べるオオバン(クイナ科)。黒いからだと白いくちばし、額が特徴。

最後に、冬鳥の場合と留鳥(一年中、日本にいる鳥)の場合があるといわれるオオバンです。この池では、春～秋の観察時には見かけなかったのですが、こちらの「冬鳥編」の方に入れておきますが、「他の季節にも見かけたよ。」という情報がありましたら、教えて下さい。カモではなくツルに近いクイナ科の鳥です。黒い体に白いくちばしと額が特徴で、警戒心が強いのか、なかなか近づけません。水草の根や葉が好物ですが、魚や昆虫を食べることもあるそうです。【理科支援員 宮内】



↑ 近づくと、走るように水面をけて逃げたオオバン。クイナ科の鳥は、皆、警戒心が強いらしい。